



本校の授業改善に向けた視点					
教育課程編成上の工夫	指導内容・指導法の工夫	校内における研究・研修の工夫	評価方法の工夫	家庭や地域との連携の工夫	小中一貫教育の視点
◇国語科の研究成果を生かし、各教科の学習の中で、自分の考えをもち交流することによって、さらに広げ深める力を継続的に育成する。(朝トク活動など) ◇特色ある教育活動の充実を図る。 [持久走大会・よみママクラブ]	◇年間指導計画・評価規準を見直し、授業における指導と評価の一体化を図る。 ◇3年～6年の算数少数人数指導を実施し、個に応じた指導をする。 ◇各教科で話す・聞く力を伸ばす指導法を工夫する。	◇研究主題「自分の考えを広げたり深めたりできる立野の子」～伝え合う活動を通して(算数科)～ ◇研究授業〔6回〕や事前授業の充実を図る。	◇1時間での評価規準を1項目に絞る。 ◇国語・算数科では観点毎に適切な評価をする。 ◇児童の学習意欲の向上を図るために、自己評価や相互評価を積極的に取り入れる。	◇学校公開日を年に4回設定し、保護者や地域住民に公開する。 ◇道徳授業地区公開講座を1月に実施する。 ◇地域、PTAと共催でもちつき大会を実施し、相互の交流を図る。	◇6年生が石神井西中学校での部活動見学を実施する。 ◇中学生が小学校での職場体験を実施し児童と生徒との交流を図る。 ◇校区别協議会において小学校と中学校の共通理解を図る。